

## 令和2年度 常葉大学 第6回FD・SD研修会（全学共通研修会）報告

日 時	令和2年12月9日（水）	15時10分～16時30分
場 所	常葉大学静岡草薙キャンパス A201 教室 静岡瀬名キャンパス 大会議室 静岡水落キャンパス 第3・4会議室 浜松キャンパス トコハホール	
講演内容	「責任ある研究活動をめざして」	
講 師	科学技術振興機構 監査・法務部 研究公正課 主任調査員 浅野 誠 様 主任調査員 笹島 伊三美 様	
出席者数	常葉大学静岡草薙キャンパス	176 人
	静岡瀬名キャンパス	13 人
	静岡水落キャンパス	48 人
	浜松キャンパス	113 人
	合 計	350 人

※出席者数には、オンライン（ZOOM）による視聴者、短大部教職員も含む。

「責任ある研究活動をめざして」をテーマに科学技術振興機構様から講師をお招きし、令和2年度第6回FD・SD研修会（全学共通研修会）が開催された。

初めに、小田敏明研究倫理委員長から講師の紹介があった。

続いて、配布資料に沿って下記のとおり研修が行われた。

1. 研究機関での不正防止の取組み
2. 研究活動の不正行為及び研究費の不正使用について
3. 研究倫理映像教材「The Lab」の上映
4. 質疑応答

近年の研究に関する不正事案の動向について紹介があった。平成16年から令和元年度の期間には約240件の不正事案が認定され、そのうち約6割の機関はその期間中には1件だけ発生していなかった。このことから、これまで不正事案が発生していないから大丈夫ではなく、「降りかかるかもしれない火の粉」から自らを守るためにも正しい知識が必要であることが分かった。

続いて、研究活動における不正行為について、説明があった。特定不正行為にあたる捏造、改ざん、盗用のほか、同じ研究成果の重複発表、論文著作者が適正に公表されない不適切なオーサーシップなどの事案が近年増加しているとの説明であった。適切な引用がなされていない場合には、自己の論文であっても自己盗用とみなされることがあるとのことであった。

続いて、研究倫理映像教材「The Lab」を視聴した。研究に携わる4人の立場ごとに倫理的な意思決定の過程をみることができた。さまざまな場面で責任ある研究活動に関する判断を行い、その過程を疑似体験でき、倫理的な判断能力や問題解決能力を身につけることができた。

研究を進めるにあたり、気づかないうちに不正を犯してしまうことがないように研究倫理の基礎知識、研究倫理を学ぶ必要性・意義などを学ぶ機会となった。